

# いなかおかし

東京都世田谷区歯科医師会会報  
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



I

2016

No. 172

## 東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅－X L IV

下馬部会 齋藤 賢 一

今回はとても身近にある石造物のお話をしたいと思います。皆さんの家のまわりを散歩してみてください。道の辻や寺社や墓地の入り口などによく置かれ、時には覆屋でおおわれた石造物があると思います。良く見るとお地藏さん



写－1 駒込 光源寺

でもなく怖い顔（恐くない場合もある）で手が6本位あり三猿やニワトリが彫刻されていれば、それは庚申塔です（写－1）。庚申塔は庚申信仰に基づくもので、この信仰は平安時代に貴族社会で始まり、室町時代から武士階級に広まり、江戸時代に庶民の間で大流行しました。庚申信仰の庚申（かのえさる、こうしん）とは干支（かんし、えと）すなわち十干・十二支の60通りある組み合わせの1つです。中国の道教では人に潜む三尸（さんし）の虫は庚申の夜、人が眠りにつくと天に昇り、天帝にその罪を告げ、天帝は罪の軽重に応じてその人の寿命を決めて行くと言われていいます。ちなみに三尸の虫は、上尸は頭、中尸は腹、下尸は足に潜んでいます。そしてこの三尸が抜け出さないように寝ないで夜を守れば長生きが出来ます。それが全国的に広がり各地域で講が出来るようになります。村人や町人が集会所などに集まり詠歌や念仏を唱えて朝が来るのを待ちます。これを庚申待ちと言います。禁忌事項もあります。この日は洗濯、裁縫、夜業、髪結い、山や漁に出ること、夫婦の営み、など



写－2 千葉県浦安 宝城院

も禁止です。庚申の日は60日ごとに回ってくるので年に6回ありますが、年によっては5回、7回るときもあります。3年間に18回庚申待ちをおこなうと庚申供養のため石塔を造立しました。これが庚申塔です。庚申塔を良く見てくだ

さい。中央に彫ってある本尊はほとんどの場合、青面金剛です。腕の数は2臂から8臂まであります。そして手には色々な物を持っており、足で鬼を踏んづけています。まわりに一對の鶏、月と太陽、三猿、二童子、四葉叉、講のメンバーや奉納者の名前、日付などが彫られています。写－2は千葉県浦安にある宝城院の庚申塔で前記のすべてがそろった大変珍しい庚申塔です。青面金剛とはインド由来の仏教尊像ではなく、中国の道教思想に由来し、庚申信仰の中で独自に発展した尊像であります。また青面金剛が傳尸病（肺結核）を除く尊像として信仰を受けていたことに由来するという説もあります。容姿は三眼の憤怒相で腕の数は2臂から8臂まであり6臂が多く見られます。手には法輪・弓・矢・剣・錫杖・ショケラ・三叉戟・棒・ヘビなどを持っています。ショケラとは上半身裸の女人像で頭髪をつかまれ、ぶら下げられています。足下には邪鬼を踏みつけています。邪鬼は2匹ですが1匹の場合が普通で、正式には二童子と四葉叉（鬼神）を伴っていますが伴っていない場合の方が多く見られます。塔の上部には

日輪と月輪が左右に彫られています。夜を徹して行われた関係で用いられたのだと思います。同じように鶏も朝鶏が鳴くまで続けるという意味と申の次の日すなわち酉の日になるまで籠るという意味があると思われます。塔の下部には見ざる・言わざる・聞かざるの三猿が彫られています。この関係は江戸時代に庚申信仰と比叡山の山王信仰が結びつき山王権化の使者が猿ということと、三猿を三尸の虫になぞらえ、「見ざる・言わざる・聞かざる」で、天帝に罪を報告させないという意味で彫られたようです。ちなみに三猿は日本が発祥の地と思われがちですが、実は古代エジプトやアンコールワットにもみられシルクロード経由で中国から伝わったと考えられます。あの南方熊楠はなんと青面金剛と猿の関係はインドに起源があり、青面金剛はヒンドゥー教のヴィシュヌ神であると言っています。本尊は多くが青面金剛ですが神道系では猿田彦大神、日蓮宗では帝釈天、その他釈迦如来、阿弥陀如来、大日如来、菩薩と沢山あります。普通の石仏との見分け方ですが何処かに三猿が彫ってあればそれは庚申塔です。又文字だけの庚申塔もあります(写-3)。中央に庚申塔、庚申供養塔、青面金剛、猿田彦大神などと彫られた単純な塔です。庚申塔は全国にありその土地によってデザインに変化があります。私が見た庚申塔の中で特徴的なものを取り上げてみたいと思います。

九州は大分県国東半島にはとても魅力的な庚申塔が沢山あります。真木大堂は巨大な大威徳明王像で有名ですが境内の庭には石仏がならべられています。そのなかに数体面白い庚申塔があります(写-4)。青面金剛は六臂で二童子を連れて蓮華の



写-3 上野 小野照崎神社



写-4 大分県 真木大堂



写-5 大分県 真木大堂

面白い物はありません。写-1は典型的な東京の庚申塔で二童子、四葉叉は彫られていません。写-7は東京でも屈指の庚申塔で六臂の青面金剛、二童子、四葉叉、一鶏、一猿が彫刻され腕の良い石工の作だと思われます。浅草の浅草寺裏に地藏堂がありそこに庚申塔などの石仏が集められています。その中に珍しい大日

上に立ち、その下に二鶏、三猿、その下に四葉叉を刻みます。もう一体も六臂の青面金剛で足下に二鶏、その下にとてもシンプルな三猿、その下に可愛い鬼の四葉叉を刻みます(写-5)。関サバ、城下カレイで有名な杵築城の城内にも面白い庚申塔があります。とてもふくよかな青面金剛で二童子を伴い六臂でその下に二鶏、三猿を彫ります(写-6)。大分県の庚申塔はとても個性的でユニークです。

東京は庚申塔の密集地帯です。世田谷区にも沢山あります。東京の庚申塔は彫りも浅く画一的であり



写-6 大分県 杵築城



写-7 板橋 東光寺



写-8 浅草 浅草寺

如来を本尊とする庚申塔がありました（写-8）。日輪、月輪蓮華座の下に一鶏、一猿を彫ります。都下の青梅市にはとてもユニークな庚申塔があります（写-9）。宗建寺の境内に円形の中に青面金剛と二鶏を彫りその台座に三猿が彫ってあります。この三猿が又ユニークで三番叟の衣装を着けています。彫りも素晴らしい出来です。

以外と面白い庚申塔があるのは三浦半島です。三浦

半島は山が海岸の方に迫ってきていますので平地は少ないのですが庚申塔が沢山保存されています。その中でも変わっているのが岩浦地区にある福寿寺境内にあります。その中の1体は踏みつけている邪鬼が女性なのです（写-10）。ここにはあと3体ありますがどれもなかなかの出来です。琴音地区にある青面金剛は龍を身体に巻き付けています。ショケラや三猿の意匠もとても気に入っています（写-11）。青面金剛の持ち



写-9 青梅 宗建寺



写-10 三浦海岸 福寿寺



写-11 三浦海岸 琴音地区



写-12 日光 神橋



写-14 群馬県 根古屋



写-15 群馬県 倉淵村

物の中ではショケラが興味を引きます。六臂の青面金剛は二臂が中央で合掌しているものと、ショケラなどを持っているものに分けられますが、三浦の庚申塔はショケラを持っているものが多く見られます。

日光の庚申塔はほとんどが日輪、月輪と向かい合った二猿だけです(写-12)。本尊の青面金剛も童子も夜叉、鶏もありません。とてもシンプルなデザインです。大谷川に架かる神橋のたもとや川の周囲の社寺に立っています。

群馬県吾妻郡の根古屋に百庚申と言われる場所があります。山の斜面に庚申塔が沢山立っているのです(写-13)。ここの特徴は青面金剛に踏みつけられて



写-13 群馬県 根古屋

いる邪鬼とその下の三猿なのですが山の中なので管理が行き届かないため下草と苔で下部がよく観察出来ないのが残念です。その中で青面金剛がウサギをかかえている不思議な像を見つけました(写-14)。また踏みつけられている邪鬼が人間のようです。ここのショケラも面白い意匠のものがあります。とても不便な場所にあります但し興味のある方には一見の価値があります。



写-16 群馬県 倉淵村

百庚申というのは庚申塔が百基集められているものと、一つの石に青面金剛が百体彫られているものがあります。根古屋の百庚申は前者ですが、後者の代表的なものに群馬県倉淵村の百庚申があります(写-15、16)。倉淵村も道祖神で有名で

すが村の中を流れる烏川沿いの浅間神社にあります。4面にわたってとても可愛い青面金剛が百体彫られています。倉渚村はとてものんびりしていて温泉もあり心が休まる場所です。

長野県の松本市から美ヶ原方面へ向かうと道祖神で有名な入山辺の村があります。道祖神を探して歩いていたら覆屋があり中に文字庚申塔とこの猿田彦庚申塔がありました（写-17）。三猿の上に仁王立ちしているのでまぎれもなく庚申塔です。

庚申塔は全国にあります。ぜひ何処かへ出かけたときには路傍の庚申塔を見つけてください。今はほとんど庚申講も無くなりましたが、塔は綺麗にお掃除され、供物や供花が捧げられています。人々の厚い信仰心は今も続いています。塔の前に立ち、手を合わせていると、いにしえの土地の人々の庚申待ちの声が聞こえてくるかもしれません。



写-17 長野県 入山辺

このたびホームページを作りました。興味のある方はご覧ください。

アドレスは [www.ravana.jp](http://www.ravana.jp) です。